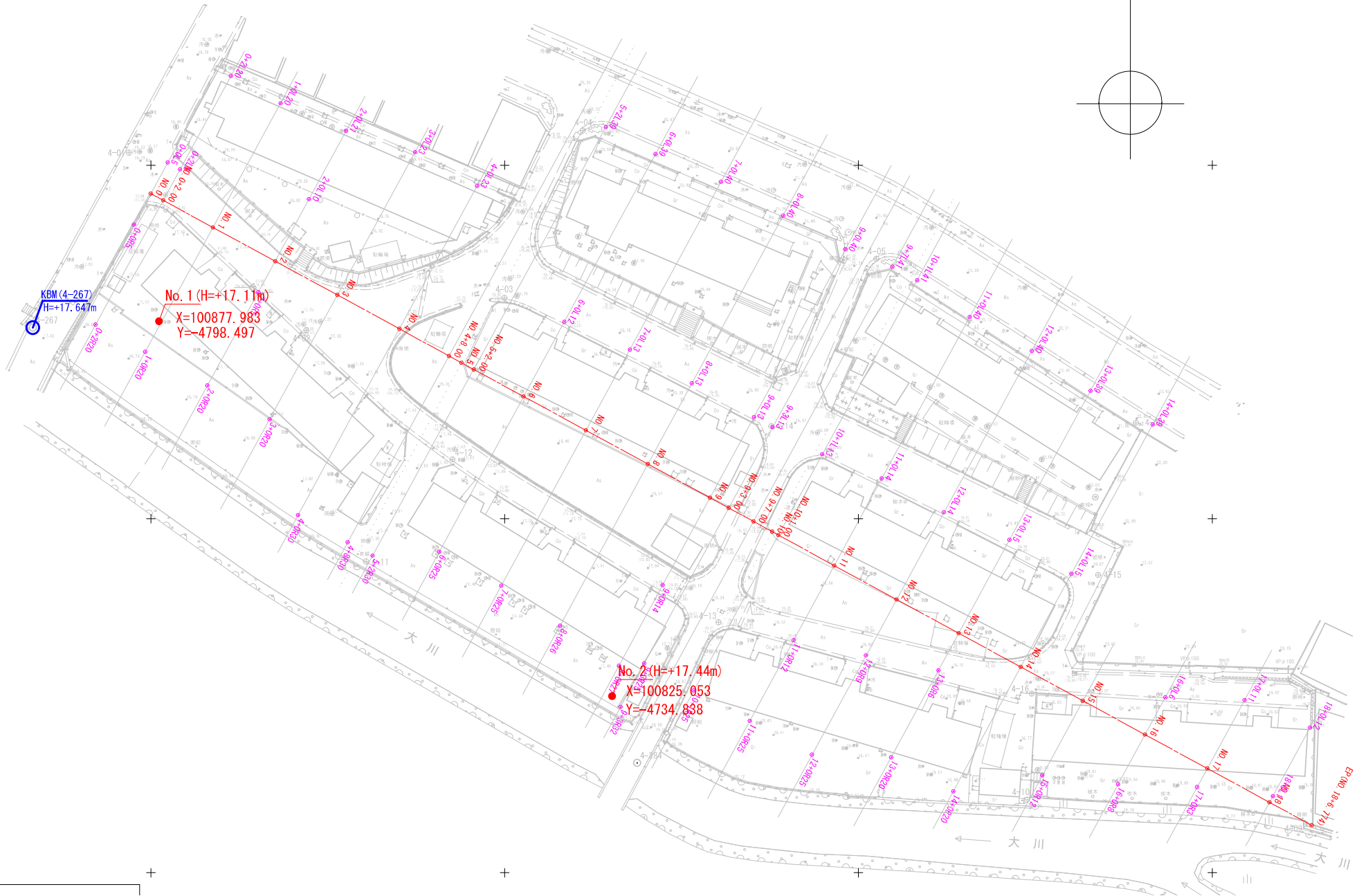
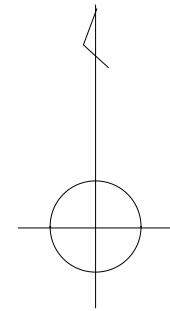


調査位置図

S=1:500

別紙4 地質調査報告書



KEM(4-267)
H=+17.647m

No. 1 (H=+17.11m)
● X=100877.983
Y=-4798.497

No. 2 (H=+17.44m)
● X=100825.053
Y=-4734.838

ボーリング柱状図

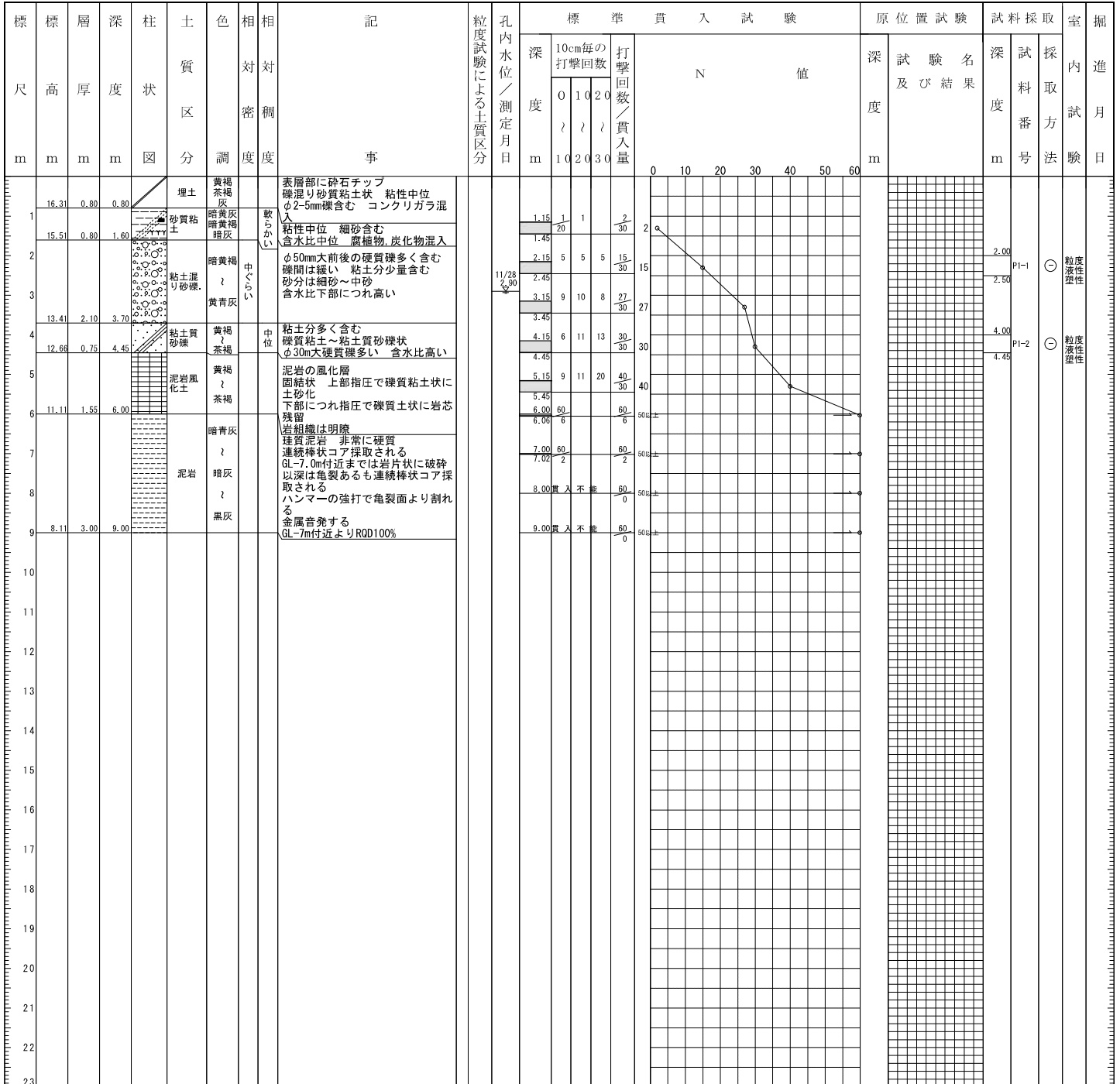
調査名 (仮称) 永黒団地第1工区地質調査業務委託

ボーリングNo. 50306795001

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	No.1	調査位置	福岡県北九州市門司区永黒二丁目4番		北緯	33° 54' 34.5850"		
発注機関	北九州市		調査期間	令和4年11月28日～ 令和4年11月29日		東経	130° 56' 53.1800"	
調査業者名	北九州地質合資会社 電話 093-230-6614		主任技師	川野義人		現代理人	川野義人	
コア	KBM 17.11m		角	180° 上下 0°		方	北 0° 西 270° 東 90° 南 180°	
総掘進長	9.00m		地盤勾配	鉛直 0° 水平 0°		使用機種	試錐機 東邦地下工機 D1-B型 エンジン ヤンマー NFAD12型	
						ハンマー落下用具	半自動型	
						ポンプ	東邦地下工機 BG-3B型	



ボーリング柱状図

調査名 (仮称) 永黒団地第1工区地質調査業務委託

ボーリングNo. 50306795002

事業・工事名

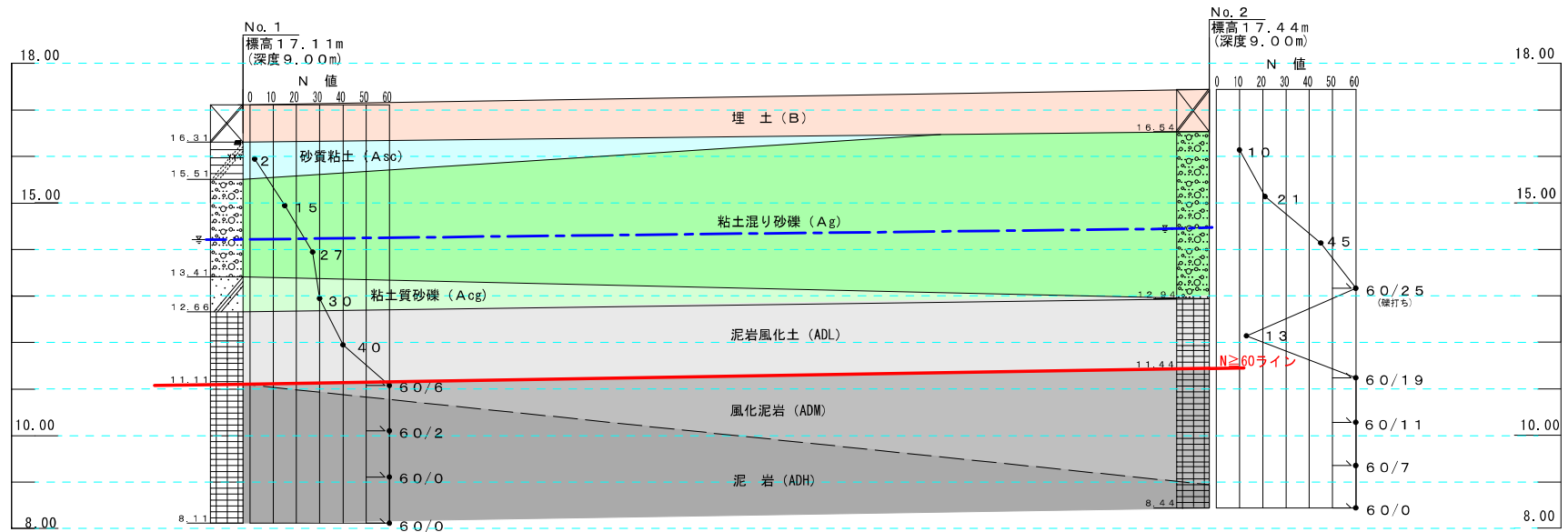
シートNo. 002

ボーリング名	No.2	調査位置	福岡県北九州市門司区永黒二丁目4番	北緯	33° 54' 32.8680"
発注機関	北九州市	調査期間	令和4年11月30日～ 令和4年12月 2日	東経	130° 56' 55.6730"
調査業者名	北九州地質合資会社 電話 093-230-6614	主任技師	川野義人	現代理人	川野義人
コア	川野義人	鑑定者	川野義人	ボーリング責任者	江川貴司
孔口標高	KBM 17.44m	角	180° 上 下 0°	方	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南
総掘進長	9.00m	度	鉛直 0° 水平 90°	地盤勾配	
使用機種	試錐機 東邦地下工機 D1-B型 エンジン ヤンマー NFAD12型	ハンマー	落下用具	ポンプ	東邦地下工機 BG-3B型

標尺	層高	厚	深	柱状	土質	色	相対	相対	記	粒度試験による土質区分	孔内水位/測定月日	標準貫入試験				N 値	原位置試験	試験名及び結果	試料採取	室内	掘進		
												深	10cm毎の打撃回数	打撃回数/貫入量	度								
1	16.54	0.90	0.90	埋土	黒灰黄褐				7cmアスコン 13cm砕石 以深は礫混り粘土状 粘性中位 φ5mm大混入			1.15	4	3	3	10/30							
2				粘土混り砂礫	暗黄褐				GL-2.0m付近まで粘土混り砂礫～ 粘土質砂礫状 含水比低い 埋土 の可能性あり φ40mm大前後の硬質礫多い φ100mm大までの硬質礫主体 礫は非常に硬質で短柱状コアで抜 ける箇所 礫間は細い 粘土分含む 砂分は中砂 含水比高い 透水ほぼ100%		12/1 3.00	2.15	7	8	6	21/30							
3				黄青灰								3.15	11	21	13	45/30							
4	12.94	3.60	4.50	泥岩風化土	黄褐 暗黄灰				泥岩の風化層 固結状 指圧で粘土質砂礫状に土砂化 岩組織明瞭			4.15	36	11	13	60/25	50%上						
5				暗黄褐								5.15	4	5	4	13/30							
6	11.44	1.50	6.00	暗黄灰								6.10	28	32	9	60/19	50%上						
7				暗黄灰					風化泥岩状 固結状 指圧～ハンマーの軽打で破碎 潜頭部礫質粘土状 以深は礫質土状に岩芯残留 GL-8.50m付近より非常に硬質 珪質泥岩 連続コア採取 片状～短柱状 GL-8.50m付近で100%透水			7.10	51	9	60/11	50%上							
8				暗青白								8.05	60			60/7	50%上						
9	8.44	3.00	9.00	暗灰								9.00	貫入不能			60/0	50%上						

想定地層断面図

1:100
1:400



地質年代	地層名	記号	N 値 (回)	観察記事
現代	埋土	B	—	No. 1: 表層に碎石チップ 礫混り砂質粘土状 粘性中位 φ2~5mm次の礫分含む コンクリートガラ混入 No. 2: 7cmアスファルトコンクリート 13cm碎石 以深は礫混り粘土状 粘性中位 5mm大礫分混入 含水比低い
新生代	第四紀 沖積堆積物	砂質粘土	$\bar{N}_1=2.0$ (2)	粘性中位 細砂含む 含水比中位 腐植物、炭化物混入 No. 1孔で確認
		粘土混り砂礫	$\bar{N}_4=18.3$ (10~27)	No. 2孔ではGL-2.0m付近まで粘土混り砂礫~粘土質砂礫 埋土状 φ50mm大までの硬質角礫主体 φ100mm大前後のものもコア状に採取 礫間は細砂~中砂主体で緩い 粘土分含む含水比高い 遡水ほぼ100%に近い ※N=45, 60/25は礫打ちで除外する
		粘土質砂礫	$\bar{N}_1=30.0$ (30)	粘土分多く含む砂礫 礫質粘土~粘土質砂礫状 φ30mm大の硬質角礫多い 含水比高い No. 1孔で確認
古生代	呼野層群 足立山ユニット 石炭紀~二疊紀	泥岩風化土	$N_2=26.5$ (13~40)	風化進行し固結状 上部指圧で礫質粘土状採取される 下部につれ指圧で粘土質砂礫状に流れる 礫状に岩芯残留する 岩組織は明瞭
		風化泥岩	$\bar{N}_4=60/108$ (60/190~60/60) 換算N値N=166.7	No. 2孔のGL-8.50m付近までは風化泥岩状 固結状 指圧~ハンマーの軽打で破碎 潜頭部は礫質粘土状 礫質土状に岩芯残留する 岩組織は明瞭
		泥岩	$\bar{N}_4=60/5$ (60/20~60/0)	非常に硬質な珪質泥岩 連続コア状採取される 片状~短柱状 GL-8.5m付近より非常に硬質となり棒状コア採取 ハンマーの強打で金属音 GL-8.5m付近で100%遡水 岩組織は明瞭